木村君の古典落語の分類と寄席の経済性を拝聴して

40年前食品の東京にちょっこっと在籍したあの木村君が一念発起して落語家になったと聞いて、大変興味を持ちました。もともとひょうきんなところがあり、漫才向きかと思っていましたが、天満天神繁盛亭の落語講座に通い勉強したそうです。そしてあの桂三枝から「天満屋久兵衛」を命名してもらったとか。久兵衛と言ったら東京では銀座の高級寿司店、いい名前もらったなあと思い、東京トーク会に出演依頼し二つ返事でOKをもらいました。

　9月26日の当日は20人の参加があり、その中には木村君のお嬢さんがビデオ撮影のため参加、又食品OBの親衛隊が女性も含め4人参加していただき盛り上げていただきました。

　さていよいよ本番、着物姿で登場し赤い毛氈の上に座るといっぱしの落語家に早変わり、演目は上方落語の「鉄砲勇介」という出し物でした。私には初めての題目でストーリーが今一つ理解できませんでしたが、彼の話ぶり、身振りには修行したあとがみられ、目力がきわだっていました。出来栄えは私には判定できません。

　続いて古典落語を分類し、その中で主だった落語についてひとつずつ錆の部分を解説してもらいました。よく勉強しているさまが垣間見られました。ちょっと長すぎるな――と思ったところで寄席の経済性の話に移り、少し坐全体の空気がしまったように感じられました。

古典落語の解説や寄席の経済性について、もう少し的をしぼつたほうがよかったかと思いました。次回に期待したいものです。

　講演終了後の恒例の懇親会は少し人数が減りましたが、和気藹々の雰囲気で、木村君は今日初めて会った大滝さんや森さんとも会話がはずみ盛り上がりました。各自の挨拶では皆さま落語について自分なりのうんちくを披露していただき、改めて落語の人気を認識できました。

木村君、遠路ご苦労さまでした。そしてありがとう。

木村君の感想「大変楽しかったです」とのこと。

今回大阪から初めての演者を迎えました。東京からは吉田さんが大阪のワイガヤ会に出演されています。今後ますます東西交流を目指したいと世話役鈴木氏の談あり。